欠損データを含む統計に関する国際ワークショップ

1999年10月28～31日に米国オレゴン州ポートランド市で開催された「サンプル調査無回答に関する国際会議」についてはすでに（本誌第55巻４号）で紹介したが，それとも部分的に関心が重なる「欠損データを含む統計に関する国際ワークショップ：測定誤差と欠測データがある場合の統計分析における最近の展開（International Workshop, Statistics with Deficient Data: Recent Developments in Statistical Analysis in the Presence of Measurement Error and Missing Data)」が2000年７月13～15日にドイツのミュンヘン大学（Ludwig-Maximilians-Universität München）で開催された．このワークショップは同大学の統計学研究科とＳＦＢ386（断続構造の統計分析―計量生物学・計量経済学におけるモデリングと応用―研究ユニット）の Hans Schneeweiss 教授と Helge Toutenburg 教授が組織委員長を務め，同研究科とその関係者が中心となって組織委員会を構成した．

同ワークショップは午前２コマと午後２コマずつ初日の午前から最終日の午前まで開催され，最終日の午後も１コマと閉会式が行われた．１つのコマでは２～３報告が行われ，計28報告が行われた．それに加えて初日夕方に１時間半ほどポスター・セッションが開催されたが，筆者も19のポスターの１つとして“An Analysis of Correlates of Underreporting Based on Two Successive Surveys: The Case of Induced Abortions in Japan”と題された報告を行った．

ポートランドの会議と比べると参加者が100名程度と規模が小さかったこともあり，参加者のほとんどがヨーロッパの統計学者であったが，それだけに密度の濃い会議であった．同ワークショップは当初，２日間の予定であったが，報告申し込みが予想以上に多かったため，３日間に延長されるとともにポスター・セッションが設けられたという経緯もあり，ヨーロッパの統計学者の不完全データに対する関心の高さを物語っている．2001年８月22～29日にソウルで開催予定の国際統計協会大会でも不完全データに関連するセッションがいくつか設けられるはずであるが，日本統計学会等の大会でもそのようなセッションが設けられて国内でも勉強の機会が得られることを切望する次第である．

（小島　宏記）